

第3期滋賀県スポーツ推進計画に基づく施策の実施状況説明書（概要版） （令和7年度実績）

第3期滋賀県スポーツ推進計画の概要

平成27年12月に公布、施行した滋賀県スポーツ推進条例に基づき、令和5年度から令和9年度までの5年間の計画期間とする「第3期滋賀県スポーツ推進計画」（以下「推進計画」という。）を令和5年3月に策定した。

- ・ 目指す姿 すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、感動を共有し、互いに連携・協働することを通じて、地域に誇りや愛着を持ち、健やかで豊かな生活を営むことができる共生社会の実現 —スポーツで滋賀を元気に！感動を未来へ！—
- ・ 基本方針 I 「健やかで豊かな生活」をつくる
 II 「活力のある地域」をつくる
 III 感動を未来へつなぐ
- ・ 施策 「人」「地域」「大規模大会」の視点から7つの施策を掲げる。
 1 生涯にわたるスポーツ活動の充実
 2 子どもの運動・スポーツ活動の充実
 3 障害のある人のスポーツ活動の充実
 4 スポーツを通じた連携・協働の推進
 5 スポーツを生かした地域の活性化
 6 わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等に向けた競技力向上と競技水準の定着
 7 地域の特性を生かした大会レガシーの創出と未来への継承
- ・ 計画期間 令和5年度～令和9年度（5年間）

■指標の達成状況

- ・ 達成率 【（実績-基準）／（目標-基準）×100】により算定
 達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」としている。
- ・ 評価 滋賀県基本構想実施計画（第2期）に位置付けがある指標のうち同実施計画の年次目標を達成しているものは「A」、達成していないものは「B」、未集計は「N」として表している。ただし、同実施計画の年次目標に位置付けがない指標については、令和5年度は20%以上、令和6年度は40%以上、令和7年度は60%以上のものを「A」、令和5年度は20%未満、令和6年度は40%未満、令和7年度は60%未満のものを「B」として表している。

評価	令和5年度	令和6年度	令和7年度
A：年次目標達成	7項目	6項目	8項目
B：年次目標未達成	8項目	9項目	8項目
N：未集計	1項目	1項目	0項目
合計	16項目	16項目	16項目

※再掲の指標は除く

第3期滋賀県スポーツ推進計画における指標および目標値・実績値

評価	項目数	指標	計画策定時 (基準値)	R7	目標値 (R9)	達成率(%)
A (年次目標達成)	8	②スポーツボランティア参加者数 (延べ人数)	1,867人 (R3)	13,580人	3,800人以上	100
		③公認スポーツ指導者数	3,294人 (R4)	5,071人	4,300人以上	100
		⑤県内の公共スポーツ施設 (社会体育施設・都市公園等における運動施設)の利用者数	7,630,300人 (H30)	8,492,281人	880万人以上	73.7
		⑧県障害者スポーツ大会等の参加者数 (延べ人数)	899人 (R3)	2,155人	1,600人以上	100
		⑩アスリートを採用した県内企業数	46社 (R3)	70社	64社以上	100
		⑪県内のプロスポーツチーム等との連携およびスポーツを通じた大学との連携の件数	60件 プロチーム等: 21件 大 学 : 39件 (R3)	104件 プロチーム等: 21件 大 学 : 83件	90件以上	100
		⑬滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	42,174人 (R3)	231,682人	12万人以上	100
		⑭国体・国スポ総合順位	20位 (R4)	優勝	開催年: 優勝 開催後: 15位以内	100
B (年次目標未達成)	8	①成人 (男・女) の週1回以上のスポーツ実施率	男55.2% 女48.6% (R3)	男54.5% 女51.0%	男女とも70%以上	男 0 女 11.2
		④国体・国スポの監督に占める女性の割合	16% (R4)	19%	25%以上	33.3
		⑥「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合	【小5】 男子69.1% 女子51.8% 【中2】 男子59.8% 女子38.2% (R4)	【小5】 男子70.7% 女子50.7% 【中2】 男子62.7% 女子37.7%	【小5】 男子74.0%以上 女子54.0%以上 【中2】 男子62.0%以上 女子45.0%以上	【小5】 男子 32.7 女子 0 【中2】 男子 100 女子 0
		⑦障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.4% (R4)	42.1%	50%以上	31.9
		⑨公認障がい者スポーツ指導者数	345人 (R3)	423人	490人以上	53.8
		⑫スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数	876万人 (R3)	1,003万人 (速報値)	1,200万人以上	39.2
		⑮日本代表強化指定選手数 (令和5年度から令和9年度までの間の累計)	オリンピック : 21人 パラリンピック : 17人 (R3年度単年の 指定選手数)	オリンピック : 58人 パラリンピック : 80人	オリンピック : 125人以上 パラリンピック : 100人以上	35.6 75.9
		⑰スポーツを観戦した県民の割合 (テレビ観戦などは除く)	21.5% (R4)	25.9%	40%以上	23.8

※滋賀県基本構想実施計画 (第2期) に位置付けがある指標のうち同実施計画の年次目標を達成しているものは「A」、達成していないものは「B」として表している。

ただし、同実施計画の年次目標に位置付けがない指標については、令和7年度が推進計画の3年目に当たることから、60%以上のものは「A」、60%未満のものは「B」として表している。

※再掲の指標は除いている。

【基本方針Ⅰ】「健やかで豊かな生活」をつくる

（施策１）生涯にわたるスポーツ活動の充実

【主な指標の状況】

指 標	策定時	R5	R6	R7	R9 目標値	達成率	評価
①成人（男・女）の週１回以上のスポーツ実施率	男性 55.2%	男性 54.9%	男性 54.6%	男性 54.5%	男女とも 70%以上	男性 0%	B
	女性 48.6%	女性 49.3%	女性 46.4%	女性 51.0%		女性 11.2%	B
	(R3)						

【主な施策の実施状況】

県民の誰もが参加できる「滋賀県民総スポーツの祭典」は、参加者の応募状況等により一部競技が中止となったが、全７部門 163 種目中 142 種目が開催された。全体の参加者数は 35,375 人であった。（昨年度参加者数 36,571 人）



（滋賀県民総スポーツの祭典）

【今後の方向性】

滋賀県民総スポーツの祭典をより一層多くの方々に参加していただける大会にしていく必要があるが、参加者の固定化等が課題である。より多くの方が参加できるよう、令和６年度には、親子で参加できる「交流の部」を新設したところであり、内容の充実を図るとともに、周知や広報を積極的に行うことで、祭典の活性化とともにスポーツ実施率の向上につなげる。

指 標	策定時	R5	R6	R7	R9 目標値	達成率	評価
②スポーツボランティア参加者数（本県ボランティア登録システム利用）	1,867 人 (R3)	1,300 人	2,259 人	13,580 人	3,800 人以上	100%	A

【主な施策の実施状況】

県内で開催する大型スポーツイベント等に向け、スポーツボランティアが登録する「ゲームコンダクター SHIGA」を活用し、令和７年度末時点で延べ 13,580 人が活動いただいた。（昨年度末の活動者数延べ 2,259 人）



（びわ湖マラソンボランティア）

【今後の方向性】

今後予定されている大規模スポーツイベントでボランティアとして活躍していただけるよう、多様なスポーツイベントでの活動機会の提供に取り組んでいく。

（施策3）障害のある人のスポーツ活動の充実

【主な指標の状況】

指 標	策定時	R5	R6	R7	R9 目標値	達成率	評価
⑧県障害者スポーツ大会等の参加者数	899 人 (R3)	1,796 人	2,053 人	2,155 人	1,600 人以上	100%	A
⑨公認障がい者スポーツ指導者数	345 人 (R3)	383 人	396 人	423 人	490 人以上	53.8%	B

【主な施策の実施状況】

障害者が身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブおよび市町障害者スポーツ協会に委託し、パラスポーツ教室を実施した。（18 団体、参加者数（障害者）延べ 2,238 人）

例年開催している滋賀県障害者スポーツ大会は、全国障害者スポーツ大会選考会の部として、団体3競技（個人競技はリハーサル大会）を開催（参加者数延べ 613 人）するとともに、誰もが気軽にスポーツに親しめるスポーツフェスタの部として5競技を実施（参加者数延べ 349 人）した。



（パラスポーツ教室）

また、パラスポーツに関わる新たな指導者を育成するための講習会やパラスポーツに触れる機会の少ない県民に対してパラスポーツ体験会等のイベントの開催を委託し、パラスポーツに携わる人口を増加し、県民へのパラスポーツに対する理解促進を図った。（研修会6回、参加者数延べ 101 人、体験会4回延べ 3,466 人）

【今後の方向性】

総合型地域スポーツクラブや市町障害者スポーツ協会等を地域の活動拠点のひとつとして位置づけ、これまでパラスポーツ教室に取り組んできたノウハウを共有することで、パラスポーツに取り組む団体を増やすほか、パラスポーツに取り組める活動拠点の情報を地域の障害のある人に提供できる体制を整備する。

また、障害のない人がパラスポーツを気軽に体験できる場を設け、パラスポーツについて知ってもらうとともに、多様な団体が一堂に会する場を設け、パラスポーツの振興を図り、障害者の「する」「みる」「支える」の推進および、スポーツを通じた共生社会の実現のための課題の共有や対応策の検討、多様な主体間の連携を促進する。

【基本方針Ⅱ】「活力のある地域」をつくる

（施策5）スポーツを生かした地域の活性化

【主な指標の状況】

指 標	策定時	R5	R6	R7	R9 目標値	達成率	評価
⑬滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	42,174 人 (R3)	120,900 人	203,548 人	231,682 人	12 万人以上	100%	A

【主な施策の実施状況】

県内のプロスポーツチーム等（滋賀レイクス、東レアローズ滋賀、レイラック滋賀FC）の試合会場において、国スポ・障スポやワールドマスターズゲームズ2027関西の広告やのぼりの掲出を行い、両大会の周知と機運醸成を図った。

また、滋賀レイクスや東レアローズ滋賀のホームゲームを本県の冠試合として開催し、国スポ・障スポの競技体験ブースを設けるなどしてPRを展開した。



（レイラック滋賀FCホームゲーム）

【今後の方向性】

プロスポーツの盛り上げに一層取り組みながら、県内のプロスポーツチーム等の発信力を活用することで、県内・県外から観戦客を呼び込み、スポーツ振興を図るとともに地域活性化の一助となるように努めていく。

【基本方針Ⅲ】感動を未来へつなぐ

（施策6）わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等に向けた競技力向上と競技水準の定着

【主な指標の状況】

指 標	策定時	R5	R6	R7	R9 目標	達成率	評価
⑭国体・国スポ総合順位	20 位 (R4)	17 位	8 位	優勝	本県開催年度 (R7): 優勝 本県開催後: 15 位以内	100%	A
⑮日本代表強化指定選手数 (令和5年度(2023年度)以降の累計)	オリンピック: 21 人	18 人	38 人	58 人	125 人以上	35.6%	B
	パラリンピック: 17 人 (R3 年度単年の 指定選手数)	28 人	54 人	80 人	100 人以上	75.9%	A

【主な施策の実施状況】

国スポにおいて、男女総合成績1位、女子総合成績1位となり、目標であった「天皇杯」、「皇后杯」を44年ぶりに獲得することができた。

スポーツ特別指導員をはじめ選手指定強化対策事業による支援を受ける成年選手、高校生トップアスリート支援事業や強化拠点校所属の少年選手の躍進により、全種別で大きく得点をあげ、競技別男女総合成績で28競技、女子総合で23競技が入賞するなど、これまでの強化の成果を十分に発揮することができた。

一方、障スポにおいては、開催県ということで昨年の佐賀大会に比べて5倍以上の選手が出場した。目標としていた「全競技種目出場」を達成するとともに、それぞれの選手がベストを尽くした結果、個人競技で173個のメダルを、団体競技では身体障害者バレーボール男子が銅メダルを獲得するなど、過去最高のメダル獲得数となった。また、大会新記録を14種目で更新することができ、これまでの育成・強化の取組の成果を十分に発揮することができた。

【今後の方向性】

トップアスリートを目指す子どもたちのチャレンジを支援するため、「滋賀レイキッズ」の取組を継続するとともに、レイキッズ修了生が中学入学以降も全国大会や国際大会での活躍を目指し活動できるよう、競技団体が実施する事業を支援する。

また、国スポ・障スポの開催を通して培ったヒト・ノウハウや整備の進んだ施設など、大会に向けた取組の過程で得られた成果を活かし、競技水準を維持していくことはもとより、すべての県民が年齢や体力、意欲に応じてスポーツに親しみ挑戦できる機会の創出につなげる。



(わたSHIGA輝く国スポ解団式)

（施策7）地域の特性を生かした大会レガシーの創出と未来への継承

【主な施策の実施状況】

国スポ・障スポは「みんなが輝く大会」を理念に、多くの主体の参画のもと開催することができた。開催にあたって、競技会場施設の整備や協議会の運営に対する市町への支援を行ったほか、テレビや新聞など多様な媒体を活用した広報に加え、街を国スポ・障スポ仕様に装飾するシティドレッシング事業などによる機運醸成の成果が表れ、両大会を通して、県内外から延べ約68万人もの来場者を迎えることができた。

また、令和6年4月1日付けで設置したレガシー2025 創出推進本部において、大会を契機にどのような滋賀づくりをしたいのか、どのような暮らしが作れるのかといった視点で、施策の磨き上げや新たな魅力創出につながる具体的施策について検討した。

【今後の方向性】

国スポ・障スポに向け培ってきた開催準備や大会運営のノウハウを継承し、令和9年に開催されるワールドマスターズゲームズ2027 関西の大会運営を行っていく。

また、「スポーツの力で、かわる・つながる・ひろがる」の3本柱に、シンボルスポートの創出・定着といったスポーツ振興にとどまらず、共生社会実現や環境配慮といった全庁的な取組を実施し、レガシーの継承・発展のための取組を推進していく。